



ているのでしょう。神の愛や神の祝福に対する感謝の心から戒めに従って生活することは、重荷とはなりません。

聖書からその実例を見ましょう。ルカの福音書19章1節から9節に、取税人のかしらであるザアカイの話が書かれています。イエスの時代の取税人はユダヤ人ですがローマ帝国のために徴税しました。そのため、ユダヤ人は取税人を裏切り者（売国奴）とみなしました。また、税金を集めること自体は罪ではありませんが、取税人たちは徴税額よりも多く集め、それを自分の収入にしました。そのため、取税人は同胞から罪人のかしらと呼ばれていました。ザアカイは金持ちでしたが、幸福ではありませんでした。

ザアカイはイエスのうわさを聞いていたので、イエスがエリコに来た時にどんな人か見ようとしました。しかし背が低かったので、群集がじゃまになって見るできませんでした。そこで、ザアカイはイエスを見るためにいちじく桑の木に登りました。罪人といっしょに食事をして、取税人の一人を弟子として受け入れた方を、ザアカイは何としてでも見たいと思いました。[12弟子のひとりのマタイ（レビ）は取税人でした。]ザアカイは心が痛いほど自分自身の多くの罪を分かっています。ザアカイは罪の呵責から救ってくれる人を必要としています。そして、イエスなら救うことができると確信していました。

ザアカイは既に罪を悔い改めていたので、イエスは律法を告げませんでした。罪に苦しめられていたザアカイの心は福音、つまり、罪の赦しのメッセージを必要としませんでした。この惨めな男を慰めるために、イエスは「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きよは、あなたの家に泊まることになりました。」と言いました。イエスの時代、誰かの家に泊まることはその人を受け入れることを意味しました。「きよは、あなたの家に泊まることになりました」と言うことによって、イエスは罪の赦しを宣言しました。イエスの宣言はザアカイの心から重荷を取り去って、平安と喜びで満たしました。

罪の赦しはザアカイの心を平安と喜びで満たしただけでなく、すばらしい信仰の実を生じさせました。ザアカイはイエスに言いました。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」これはイエスの命令ではありません。神の律法が要求する以上のことです。その者は罪過のため総額を弁償する（民数記5:7）。なぜザアカイは律法が要求する以上のことを行ったのでしょうか。それはイエスの愛と慈しみに対する感謝の心から出た自発的な言動でした。この世のすべての宝よりも貴重なものを与えてもらったので、ザアカイはそうしたかったのです。ヨハネが今日の箇所です。

しかし、この罪深い世に生きていく限り、私たちは罪に汚れます。この世の誘惑や私たちがイエスから引き離そうとする悪魔の力に打ち勝つために、私たちは復活したイエスの助けが必要です。復活した救い主と約束されたイエスと私たちとは信仰によって結びついています。復活した主が私たちの毎日を共に歩かせる希望を毎日祈りながら見守ってくださいます。イエスは世の人々を助けてくださいます。私たちの肉と魂の必要を毎日満たしてくださいます。復活したイエスの助けで毎日が希望と平安の日です。